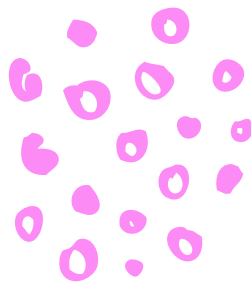
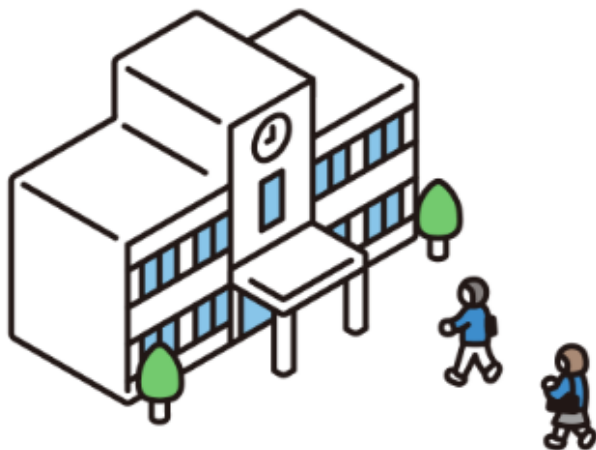


ゆりいか通信

第5号

令和6年9月



不登校は問題なのか？

不登校についてずっと考え続けてみると、モヤモヤがずっと残ります。それは、不登校は「問題ではないけれど問題である」という矛盾した認識にあるのかもしれない。まだ考えが整理されていないわけではありませんが、今感じていることを書かせていただこうと思います。そもそも「不登校」は問題なんでしょうか。「子どもが学校に行かない」という選択をする「こと」は必ずしも問題であるとは思っていません。もし、学校という場所がその子どもへの育ちに合った環境でなく、またその子どもへの心育成を阻むものであれば、登校せずに他の場所で育つ方が将来の為になるからです。そういったことから、文科省も示している通り「不登校対応の目的は、学校に戻すことではない」とされているのだらうと思います。

ゆりいか研究会の「ゆりいか」は、「発見する(「こぼる」)からきています。不登校は、その子ども自身やその子どもを取り巻く環境をもう一度見直し、今までみんなが見落としていたものを発見する貴重な機会であると気付いてほしいという思いを込めています。子どもが「学校に行かない」という選択をする、周りの大人はついついその子どもの変化を促そうと働きかけてしまいます。けれど、子どもが学校に行かない選択をした時には、周りの大人はいったんおちついて状況を整理し、その子どもへの育ちに対してどのような環境がもっとも適切なかを考えるべきです。そして、学校で身につけさせようとしているもののうち社会に出るまでに最低限身につけないといけないことは何かを整理し、それらがどの段階でどのように身につけられるのかを考えることが大切です。そういった考え方をしてくれる理解者が少ない、そのことが自体が問題ではないでしょうか。

Our Activities



ゆりいか パーソナル

ゆりいか研究会では、個別にお話をする「ゆりいかパーソナル」を行っています。学校に足が向かないお子さんに対してどのようなすればよいのか迷っておられる方、ぜひお声がけください。1回50分1000円ですが、初回は無料となっております。ご利用してみたいと思う方は、ゆりいか研究会のサイト「お問い合わせ」からご連絡ください。お待ちしております。

8月のフラツペ

【ゆるりお話し会】

8月25日1時半から、「ゆるりお話し会」と題して交流会を行いました。テーマを決めずに行うのは初めてでしたが、日頃思っていることや感じていることを自由に話すことができ、ブレインストーミング的な会となりました。また、今後フラツペで扱ってほしいテーマとして「防災」や「救急」が挙げられました。フラツペでは若者たちが将来生きていく上で知っておいてほしいことを取り扱っていますので、自分や自分の大切な人を守るために大切なテーマだと思っています。他にも取り上げてほしいテーマがあれば検討したいと思しますので、どうぞご意見をお寄せください。

ゆりいかパーソナル#

ゆりいか研究会では、学校現場での不登校理解を進めるために活動を行っていますが、この度お忙しい先生方を対象に無料オンライン勉強会を始めています。

マンツーマンでの勉強会とすること、関心のある所に絞って学びを深めていきます。また、その学びをもとにして、実際の不登校対応にもすぐに役立てていただけます。体験していただいた方々からは高評価をいただいております。ぜひお試しくください。

遠隔授業スペース

フェルマータ

学校に足が運ばない高校生が、学校以外でも授業を受けられるように遠隔授業受講スペースを準備しています。授業に出にくいお子様が気軽に声がけください。

Thanks to

THE PEOPLE WHO WARMLY SUPPORT US

支援者の皆様（支援者一覧・順不同）

多喜誠子さま、杉本さま他 クラウドファンディングおよびその他の形での寄付をしていただき、ありがとうございました。

なお、campfire community において、クラウドファンディングを行っております。また直接の寄付も受け付けております。どうぞお声がけください。



今月のコラム

今月は、ゆりいか研究会のスタッフによるコラムです。

私たちの自由と責任

「世知辛い」と思うことはありませんか？
数年前、詩人・翻訳家のアーサー・ビナードさんの講演を拝聴する機会がありました。私が生まれるより前から日本で暮らすアーサーさんは、その中でこんなことをおっしゃいました。

「最近、「世知辛い」という言葉を聞かなくなりました」

言われてみれば、それまで私は「世知辛い」と思ったことはなかったように思います。日本は世知辛い社会ではなくなったのでしょうか。アーサーさんは続けてこうおっしゃいました。

「代わりに、「生きづらい」という言葉がよく耳にするようになった」

なるほど。「生きづらい」と思ったことなら、たかが二十数年の人生の中でも何度もあるなあ。私は大きく頷きました。

この二つの言葉は、似ているようで正反対です。「世知辛い」は、その原因が社会の側にあると考えているときに使いますが、「生きづらい」は、個人の中に原因があると考えているときに使います。

実際には、その原因は社会でも個人でもなく、その間にあるとされています。先日、ろう者の方々とお茶に行ったり、私は初めて、日本に居ながら言語においてマイノリティになる体験をしました。手話の読み取りに必死で、話が半分ほどしか入ってきません。私の手話も、何度も繰り返し返してやっと通じる状況で、話に入るのが申し訳ないと感じるようになります。

なりました。このコミュニティでは、ろうは障害ではなく、むしろ手話をスムーズに使用しない聴者の私が障害を感じるようになったのです。これはきつと、ろう者が普段経験している世界なのだろうと想像します。でも、どちらが悪いわけでもありません。

時代が進むにつれて、大人も子どもも様々な選択肢を持てるようになりました。ただし、「選択する自由」は、そのまま「選択した責任」へと転化します。そして、情報がすぐに手に入るこの時代には、「知らなかった責任」さえ問われるようになりました。現代は、いわば「自己責任」の時代です。自己責任なので、世知辛いではなく、生きづらいのです。

そもそも私たちは、本当に自由に選択しているのでしょうか。人生において、積極的な選択ができる場面はさほど多くないと感じます。選択肢が有限である限り、それはどこまで行っても消極的選択に過ぎません。自由に見えて、私たちは選ばれているのです。そして、その責任を問われるのです。やはり現実は「世知辛い」のではないのでしょうか。

こんな世知辛い今に生きる子どもたちを社会に迎え入れる大人として、ほんの少しずつでも「生きづらさ」を取り除いていくこと、たくさんの「楽しい」「面白い」の種を蒔くこと、そのために何度でもトライできる環境を作ること、これが私たちの責任だと考えています。



金鶏鳥

宮美遊

幼少期（四）

しばらくして全員が見つかり、辰郎が次の鬼になった。

辰郎が木の方を向き、腕で目を押さえた。

「いち、にーい、さーん、しーい、……」

と数えると、みんなはまた隠れに行ってしまった。信男は、辰郎のそばに立っていた。辰郎が、寺に響き渡るような大声で

「もういいかい？」

と聞くと、どこからか

「まーただよ」

と声がした。信男も辰郎の真似をして木の方を向いていたが、子供達の返事に、幼い信男はつい振り返ってしまった。信男は声のした辺りに目をやったが、姿が見えない。もう一度辰郎が

「もういいかい？」

と聞くと今度は

「もういいよー」

と返事があった。

辰郎は隠れている竜太達を探しにあちらこちらを歩きまわったので、信男は兄の後を懸命に付いてまわった。何度、辺りは薄暗くなってきた。

「暗なってきたで、帰ろかな」

と辰郎が言うと、まだ帰りたくない竜太が突然思いついたように

「蛍取りしよう」

と誘った。

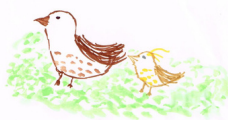
「しよう」

「しよう」

と他の子たちも口々に言った。辰郎も蛍取りがしたいと思ったが、信男が小さいから早く帰った方がいいかなと考えた。けれど、

「にいちゃん、ボクも蛍取りしたい」

と信男が手を引いたので、みんなと一緒に行く事にした。



絵：落葉画廊

この小説は、明治・大正・昭和と激動の時代を乗り切った実在の人物をモデルとした小説です。先行き不透明な現代を生きるヒントが得られるような気がします。コトにて先読みができるようになりなさい。『宮美遊』で検索してみてください。

編集後記

いよいよ行事の多い二学期に入りました。身体や心が思うように動かないこともあるかもしれない。そんな時にはふっと一息つきに来てくれればいいなあと思いつながら町家ですごしています。

(恩庄か)

おしらせ

★フラツペ
次回フラツペは9月15日午後に行います。不登校の子どもの将来設計について意見交流できればと思っております。詳細はウェブサイトをご覧ください。

★不登校の相談、ゆりいかパソナルが初回相談を無料で行うことになりました。気になることがある方はぜひご利用ください。申し込みについては研究会のお問い合わせフォームからお気軽にご連絡ください。